



東北大学



平成 22 年 7 月 20 日
東北大学大学院医学系研究科

東北大学未来医工学治療開発センター開所式・
記念シンポジウムの開催
～東北大が仕掛ける TR 戦略～

東北大学未来医工学治療開発センターは、この度、研究支援組織や CPC (Cell Processing Center : 再生医療や、細胞移植による病気治療を目的にヒトの細胞や組織の培養及び研究開発を行う施設)、オープンラボスペース (賃貸 Lab) 等を備えた建物の改修を完成させ、本格的な活動を開始しました。東北大学・宮城県のみならず東北 6 県及び全国の大学・企業の医療機器・医療材料のシーズを効果的に基礎研究から臨床応用まで一貫して支援する医工学基盤として新たな役割を担っていきます。また、これを記念して、別紙の通り、開所式ならびに記念シンポジウムを 7 月 20 日挙行いたします。

【経緯】

東北大学未来医工学治療開発センターは、東北大学におけるトランスレーショナルリサーチ (橋渡し研究 : 基礎研究の成果を臨床研究、治験に結びつける) を支援する組織として発足し、平成 20 年 2 月の開所以来 2 年余が経過しています。その間、少子・高齢化がすすむ日本社会において、国民が健康で豊かな生活を享受するには、創薬・再生医療・医療機器いずれにおいても治療に直結する生命科学・医学と工学技術の融合がますます求められてきました。そのためには、融合領域のあらゆる面から、基礎研究を臨床現場に橋渡しする「トランスレーショナルリサーチ」が欠かせず、本センターの果たすべき役割は増してきました。

【今回の開所式のポイント】

本センターは、発足以来、さまざまな整備に努めてきましたが、この度、①研究支援組織の整備、②CPC、オープンラボスペースなどを備えた本格的な研究施設の整備 (建物の改修工事による) が完了し、本格的な活動の準備が整いました。

特に、今回整備した共用実験室は、医学と工学の壁を取り払い、融合した研究ができる 3 次元レーザーや NC マシニングなどの機械加工設備、バイオ研究用の安全キャビネット、CO₂ インキュベーターなど細胞培養研究が可能な機器を設置し、先端的な橋渡し研究を進める研究者を支援するものです。また、研究者と共同研究企業などが、廊下を隔てた距離で、横と縦の距離を取り払ったコミュニケーションが可能な開発環境が維持できるオープンラボスペース (賃貸 Lab) を設置し、入居者にはセンターの共用実験室の優先利用の権利が付与されるなどセンター機能に直結した効果的な研究が可能となる体制を整備しました。

本センターの本格的な稼働により、多くの基礎研究の成果が臨床研究・治験へと、効果的・効率的に橋渡しされる体制が構築されることが望まれます。

(お問い合わせ先)

東北大学未来医工学治療開発センター

特任教授 藤原義明

電話番号：022-717-7122

Eメール：y-fujiwara@trc.med.tohoku.ac.jp

(報道担当)

東北大学大学院医学系研究科広報室

長神風二

電話番号： 022-717-7908

ファックス： 022-717-7923

Eメール： f-nagami@med.tohoku.ac.jp

東北大学 未来医工学治療開発センター 開所式

名称： 東北大学 未来医工学治療開発センター 開所式
記念シンポジウム「東北大が仕掛ける TR 戦略」
日時： 平成 22 年 7 月 20 日（火） 14:00~16:50
(なお、式・シンポジウムに先立ち、13 時から、本センターの見学会を行います)

場所： 良陵会館

プログラム：

14:00~14:05	挨拶 東北大学総長 井上明久		
14:05~14:45	挨拶及び TR センター紹介	センター長	里見 進
	シーズ・CPC 紹介	副センター長	八重樫伸生
	審査評価部門		菊地克史
	検証・情報管理部門		山口拓洋
	共用実験室		山内 清
14:45~15:25	<大学 TR に望むこと> ~各 10 分~		
	挨拶 橋渡し研究支援拠点サポート室	室長	福島雅典
	挨拶 経済産業省 産業技術環境局大学連携推進課	課長	谷 明人
	挨拶 文部科学省 研究振興局 研究振興戦略官		渡辺正実
	挨拶 厚生労働省 医政局 研究開発振興課	課長	千村 浩
15:25~15:40	Break		
15:40~16:10	講演 “企業が求める TR の役割”		
	日本メドトロニック(株) 取締役副社長		大西昭郎
16:10~16:50	パネルディスカッション		
	“東北大学 TR センターの役割” 総合司会：東北大学 TR センター		黒川良望
	閉会のご挨拶		医学系研究科長 山本雅之

以上